



# 茶

の 扁額 へんがく

(「茶の実会」のいわれ)

茶、「草と木のおいそう中に人みなめづる言葉も

花の香のよさ」

鈴屋翁

「茶」という字を草、人、木に分けて詠むのは、茶道の  
入門書にならうか。 「鈴屋翁」は、本居宣長の号。